What Is Enumerative Combinatorics? 1

1.1 How to Count

i が動くとき,有限集合 S_i の要素数 f(i) を数えるとする. f(i) がどのよ うな形で表されれば「数えた」といえるだろうか?

- 1. 完全に陽な閉じた式で表され、よく知られた関数のみを含み、総和記号を 含まない形.
- 2. 漸化式.
- 3. f(i) を計算するある程度効率的なアルゴリズム.
- 4. 漸近的な評価.
- 5. 母関数.

1.1.1 母関数の扱いについて

通常型母関数:

$$\sum_{n>0} f(n)x^n.$$

指数型母関数:

$$\sum_{n\geq 0} f(n)x^n.$$
 $\sum_{n\geq 0} f(n)rac{x^n}{n!}.$

これらは形式的べき級数.

x が何かの値をとるわけではなく、 x^n や $x^n/n!$ は f(n) が書かれる場所 に過ぎない.

 $F(x) = \sum_{n>0} a_n x^n$ であるとき, a_n は F(x) における x^n の係数といい,

$$a_n = [x^n]F(x)$$

と表す. $F(x) = \sum_{n>0} a_n x^n/n!$ に対しては,

$$a_n = n![x^n]F(x)$$

と表す. また,形式的に $a_0 = F(0)$ と表す.

複変数の母関数の例:

$$\sum_{l>0} \sum_{m>0} \sum_{n>0} f(l, m, n) \frac{x^l y^m z^n}{n!}.$$

(l, m) について通常型, n について指数型)

変数は無限個あってもよいが、どの項も無限個の変数を含んではならない。例: $x_1 + x_2 + x_3 + \cdots$.

和・積は次に従う.

$$egin{aligned} \left(\sum_{n\geq 0}a_nx^n
ight) + \left(\sum_{n\geq 0}b_nx^n
ight) &= \sum_{n\geq 0}(a_n+b_n)x^n, \ \left(\sum_{n\geq 0}a_nrac{x^n}{n!}
ight) + \left(\sum_{n\geq 0}b_nrac{x^n}{n!}
ight) &= \sum_{n\geq 0}(a_n+b_n)rac{x^n}{n!}, \ \left(\sum_{n\geq 0}a_nx^n
ight) \left(\sum_{n\geq 0}b_nx^n
ight) &= \sum_{n\geq 0}\left(\sum_{i=0}^na_ib_{n-i}
ight)x^n, \ \left(\sum_{n\geq 0}a_nrac{x^n}{n!}
ight) \left(\sum_{n\geq 0}b_nrac{x^n}{n!}
ight) &= \sum_{n\geq 0}\left(\sum_{i=0}^n\binom{n}{i}a_ib_{n-i}
ight)rac{x^n}{n!}. \end{aligned}$$

 $\mathbb C$ 係数の形式的べき級数全体が成す環を $\mathbb C[[x]]$ と表す.m 変数 x_1,\ldots,x_m の場合は $\mathbb C[[x_1,\ldots,x_m]]$ と表す.これらは一意分解環 (unique factorization domain) をなす.

F(x)G(x)=1 であるとき, $G(x)=F(x)^{-1}$ と表す. $F(x)^{-1}$ が存在するための必要十分条件は $F(0)\neq 0$ である. $F(x)^{-1}G(x)=G(x)/F(x)$ と表

す. $(F(x)G(x))^{-1}=F(x)^{-1}G(x)^{-1}$, $(F(x)^{-1})^{-1}=F(x)$ が成り立つ(それぞれ $(\cdot)^{-1}$ が存在する場合).

例 1.1.5. $lpha\in\mathbb{C}\setminus\{0\}$ とする. $\left(\sum_{n\geq 0}lpha^nx^n
ight)(1-lpha x)=1$ より,

$$\sum_{n>0} \alpha^n x^n = \frac{1}{1-\alpha x}.$$

原則として,形式的べき級数を関数とみなしたときに成り立つ等式は,形式的べき級数の等式としても成立する(式が形式的べき級数としても well defined である場合に限る).

例 1.1.6. 等式

$$\left(\sum_{n\geq 0} \frac{x^n}{n!}\right) \left(\sum_{n\geq 0} (-1)^n \frac{x^n}{n!}\right) = 1 \tag{1}$$

は関数論的には正しい($e^x e^{-x} = 1$). すなわち,任意の $x \in \mathbb{C}$ について

$$\sum_{n>0} \left(\sum_{k=0}^{n} (-1)^k \binom{n}{k} \right) \frac{x^n}{n!} = 1$$

が成り立つので、係数を比較して

$$\sum_{k=0}^{n} (-1)^k \binom{n}{k} = \delta_{0n}$$

である. したがって式 (1) は形式的べき級数に関する等式としても正しい.

例 1.1.7. 等式

$$\sum_{n\geq 0}\frac{(x+1)^n}{n!}=e\sum_{n\geq 0}\frac{x^n}{n!}$$

は関数論的には正しい($e^{x+1}=e\cdot e^x$)が,左辺は $\mathbb{C}[[x]]$ の元でないため,形式的べき級数に関する主張にはならない.例えば左辺の定数項は $\sum_{n\geq 0}1/n!$ であり,この級数は $\mathbb{C}[[x]]$ においては収束しない.

次の条件が成り立つとき,形式的べき級数の列 $F_1(x), F_2(x), \ldots$ が $F(x) = \sum_{n>0} a_n x^n$ に**収束する**という:

$$\forall n \geq 0, \ \exists \delta(n) \text{ s.t. } \forall i \geq \delta(n), \ [x^n]F_i(x) = a_n.$$

このことを $F_i(x) o F(x)$ や $\lim_{i o\infty}F_i(x)=F(x)$ と表す. 非零な形式的べき級数 $F(x)=\sum_{n>0}a_nx^n$ の次数 $\deg F(x)$ を

$$\deg F(x) = \min\{n : a_n \neq 0\}$$

で定める $(\deg 0 = \infty \ \text{of } S)$. $\deg F(x)G(x) = \deg F(x) + \deg G(x)$ に注意. これを用いると, $F_i(x)$ が収束する条件は

$$\lim_{i\to\infty}\deg(F_{i+1}(x)-F_i(x))=\infty$$

と表せる. また, $F_i(x)$ が F(x) に収束する条件は

$$\lim_{i \to \infty} \deg(F(x) - F_i(x)) = \infty$$

とも表せる.

命題 1.1.8. 無限級数 $\sum_{j>0} F_j(x)$ が収束するための必要十分条件は

$$\lim_{j o\infty}\deg F_j(x)=\infty.$$

証明. $\widetilde{F}_i(x)=\sum_{j=0}^i F_j(x)$ とすると, $\deg(\widetilde{F}_{i+1}(x)-\widetilde{F}_i(x))=\deg F_{i+1}(x)$.

命題 **1.1.9.** 無限積 $\prod_{j\geq 1}(1+G_j(x))$ $(G_j(0)=0)$ が収束するための必要十分条件は,

$$\lim_{j o\infty}\deg G_j(x)=\infty.$$

証明.
$$\widetilde{G}_i = \prod_{j=1}^i (1 + G_j(x))$$
 とすると,

$$\deg(ilde{G}_{i+1}- ilde{G}_i)=\degrac{ ilde{G}_{i+1}- ilde{G}_i}{ ilde{G}_i}$$
 ($ilde{G}_i^{-1}$ の定数項は非零) $=\deg\left(rac{ ilde{G}_{i+1}}{ ilde{G}_i}-1
ight) \ =\deg G_{i+1}(x).$

 $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$ は $F_j(x) = a_j x^j$ の無限級数ともみなせる.

 $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$ と G(0) = 0 を満たす G(x) について,**合成** F(G(x))を

$$F(G(x)) = \sum_{n>0} a_n G(x)^n$$

で定める.

例 1.1.10. $F(x) \in \mathbb{C}[[x]]$ が F(0) = 0 を満たすとき, $\lambda \in \mathbb{C}$ について

$$(1+F(x))^{\lambda}=\sum_{n>0}inom{\lambda}{n}F(x)^n$$

と定義する.ただし $\binom{\lambda}{n} = \lambda(\lambda-1)\cdots(\lambda-n+1)/n!$.

 $F(x) = \sum_{n \geq 0} a_n x^n$ について,形式的導関数 F'(x)(または $rac{dF}{dx}$ や DF(x))を

$$F'(x) = \sum_{n \geq 0} n a_n x^{n-1} = \sum_{n \geq 0} (n+1) a_{n+1} x^n$$

で定める.次の成立が確認できる:

$$(F+G)' = F'+G', \ (FG)' = F'G+FG', \ F(G(x))' = G'(x)F'(G(x)).$$

例 1.1.11. F(0) = 1 とし,次を満たす形式的べき級数 G(x) をとる:

$$G'(x)=rac{F'(x)}{F(x)}, \qquad G(0)=0.$$

関数論的にこの条件を F(x) について解くと,

$$F(x) = \exp G(x) \tag{2}$$

が得られる. ただし

$$\exp G(x) = \sum_{n>0} \frac{G(x)^n}{n!}$$

と定める.式 (2) は形式的べき級数の等式としても正しい.

証明. F(x) の係数を動かすことを考える.

$$F(x)=1+\sum_{n\geq 1}a_nx^n,$$
 $G(x)=\sum_{n\geq 1}b_nx^n,$ $\exp G(x)=1+\sum_{n\geq 1}c_nx^n$

とおく.各 b_n は有限個の a_i の多項式なので, c_n も有限個の a_i の多項式である.

$$c_n=p_n(a_1,a_2,\ldots,a_m)$$

とおく.各 a_i の値を適当に定めると,原点の近傍 $U\subseteq\mathbb{C}$ であって U 上で $1+\sum_{n\geq 1}a_nx^n$ が収束するようなものがとれる.U 上で $F(x)=\exp G(x)$ が成り立つので,これらの a_i の値に対して $a_n=c_n=p_n(a_1,\ldots,a_m)$.

したがって \mathbb{C}^m の近傍で $p_n(a_1,\ldots,a_m)$ が a_n に一致するので,これらは多項式として等しい.よって任意の a_i について $a_n=p_n(a_1,\ldots,a_m)=c_n$ であり, $F(G)=\exp G(x)$ が形式的べき級数の等式として成立する.

例 1.1.12. $a_0=a_1=1$, $a_n=a_{n-1}+a_{n-2}$ $(n\geq 2)$ について,母関数 $F(x)=\sum_{n\geq 0}a_nx^n$ の簡単な式を求める.

$$egin{align} F(x) &= 1 + x + \sum_{n \geq 2} a_n x^n \ &= 1 + x + \sum_{n \geq 2} (a_{n-1} + a_{n-2}) x^n \ &= 1 + x + x \sum_{n \geq 2} a_{n-1} x^{n-1} + x^2 \sum_{n \geq 2} a_{n-2} x^{n-2} \ &= 1 + x + x (F(x) - 1) + x^2 F(x) \ \end{aligned}$$

より,これを F(x) について解いて

$$F(x) = \frac{1}{1 - x - x^2}$$

を得る.

例 1.1.13. $a_0=1$, $a_{n+1}=a_n+na_{n-1}$ $(n\geq 0)$ について,母関数 $F(x)=\sum_{n\geq 0}a_nx^n/n!$ の簡単な式を求める.

$$egin{align} \sum_{n\geq 0} a_{n+1} rac{x^n}{n!} &= \sum_{n\geq 0} a_n rac{x^n}{n!} + \sum_{n\geq 0} n a_{n-1} rac{x^n}{n!} \ &= \sum_{n>0} a_n rac{x^n}{n!} + \sum_{n>1} a_{n-1} rac{x^n}{(n-1)!}, \end{split}$$

すなわち

$$F'(x) = F(x) + xF(x)$$

である.これを例 1.1.11 と同様に解いて, $F(x)=\expig(x+rac{1}{2}x^2ig)$.